

科目名	コンピュータシステム I B							
科目名(英)								
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	北島 仁宇			
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目				
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年							
授業概要	経済産業省主催 基本情報技術者試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、テクノロジー系の基礎となる情報の基礎理論やハードウェア・ソフトウェア及びストラテジ系、マネジメント系の知識を学ぶ。基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して知識の習熟を図る。							
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○					情報処理の基礎理論及びハードウェア・ソフトウェアの用語を説明できる		
	○					ストラテジ/マネジメント分野の用語について説明できる		
	○	○				表や文章に書かれている情報を元に計算式を導き出すことができる		
テキスト・教材 参考図書	基本情報処理技術者 試験対策テキスト I【ベーステクノロジー編】(TAC) 基本情報処理技術者 試験対策テキスト III【マネジメントと戦略編】(TAC) 基本情報技術者午後問題集(麻生情報ビジネス専門学校)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1 2	HW/SW 温度モニタ/プロセスの排他制御						
	3	PM プロジェクトの要員計画						
	4 5	HW/SW 浮動小数点/字句解析、構文解析、言語処理系						
	6	PM EVM						
	7 8	HW/SW 機械語命令/コンパイラ(最適化)						
	9	ST 正味現在価値						
	10 11	HW/SW ソフトウェア品質特性/マルチメディア技術				模擬試験前に授業の内容を復習しておくこと		
	12	ST 市場分析と需要予測(ST)						
	13 14	HW/SW タスク管理/電子回路・論理演算				模擬試験で正解できなかった箇所をまとめてくること		
	15	PM コミュニケーション計画						
	16 17	HW/SW プログラムの並列実行/仮想記憶方式				模擬試験前に授業の内容を復習しておくこと		
	18	PM 調達先選定						
	評価方法	(1)模擬試験を2回実施する。(2)課題レポートを2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		模擬試験	◎	◎				60%
課題レポート		◎	◎		○		30%	
受講状況					◎		10%	
履修上の注意								

科目名	コンピュータシステムⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	小淵 洋子 高倉 美哉		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	経済産業省主催 基本情報技術者試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、テクノロジー系の基礎となるデータベース、システム開発、ネットワーク/セキュリティ分野に関する知識を学ぶ。各分野の技術や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して習熟を図る。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				データモデルや正規化の知識を元にデータベース設計ができる	
	○	○				要求されるデータの選択や表の定義を行うSQL文を記述できる	
	○	○				プログラム設計書やテスト設計書を読み、ソフトウェア設計要件と照合できる	
	○	○				ネットワークでのデータ伝送に使われるプロトコルについて説明できる	
	○	○				ネットワークでの暗号化手法、コンピュータウイルスの種類や対策方法について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	基本情報処理技術者 試験対策テキストⅡ【システムの利用と開発編】(TAC) 基本情報技術者午後問題集(麻生情報ビジネス専門学校)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	DB設計復習(E-R図、正規化)					
	2	SQL復習(条件選択、グループ化、副問合せ)					
	3	NW/SC問題演習および関連技術の復習(1)					
	4	DB問題演習(副問合せ、グループ化、正規化、設計、副問合せ)				授業で配布する演習問題を解いておくこと	
	5						
	6	NW/SC問題演習および関連技術の復習(2)					
	7	DB問題演習(正規化、高度な副問合せ、ビュー、関連副問合せ)					
	8						
	9	NW/SC問題演習および関連技術の復習(3)					
	10	DB問題演習(制約、JOIN結合、データベース運用・管理)				模擬試験前に授業の内容を復習しておくこと	
	11						
	12	NW/SC問題演習および関連技術の復習(4)					
	13	システム開発(UML、テスト技法)				模擬試験で正解できなかった箇所をまとめてくること	
	14						
	15	NW/SC問題演習および関連技術の復習(5)					
	16	システム開発(ファイル処理、総合演習)				模擬試験前に授業の内容を復習しておくこと	
	17						
18	NW/SC問題演習および関連技術の復習(6)						
評価方法	(1)模擬試験を2回実施する。(2)課題レポートを2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				60%
	課題レポート	◎	◎		○		30%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	コンピュータシステムⅢB						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	72時間	担当者	北島 仁宇		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	基本情報技術者試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、アルゴリズム分野及びプログラム開発(表計算)分野に関する知識を学ぶ。に関する知識を学ぶ。初心者でも理解できるよう基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して知識の習熟を高める。プログラミングにつながるトレースカも身につける。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				表計算分野で出題される関数の仕様を理解し、活用することができる	
	○	○				表計算分野においてマクロによるセルの参照を理解し、トレースすることができる	
	○	○				擬似言語の表記方法を理解し、動きを説明することができる	
	○	○				基本的なアルゴリズムを理解し、仕組みを説明することが出来る	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 基本情報技術者 午後問題集 アルゴリズム、表計算(麻生情報ビジネス専門学校) 基本情報技術者試験の表計算問題がちゃんと解ける本(翔泳社) アルゴリズムとデータ構造(ウィネット) 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1~3	表計算21年秋~23年特別(マクロなし)					
	4~6	表計算23年秋~24年秋					
	7~9	表計算24年春~25年春					
	10~12	表計算25年秋~26年秋					
	12~15	表計算27年春~28年春					
	16~18	表計算28年秋~29年秋					
	19~21	基本アルゴリズム(ソート)				模擬試験前に授業の内容を復習しておくこと	
	22~24	アルゴリズム(文字列操作)					
	25~27	アルゴリズム(経路・距離)				模擬試験で正解できなかった箇所をまとめてくること	
	28~30	アルゴリズム(業務要件)					
	31~33	アルゴリズム(数値)				模擬試験前に授業の内容を復習しておくこと	
	34~36	アルゴリズム(その他)					
評価方法	(1)模擬試験を2回実施する。(2)課題レポートを2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				60%
	課題レポート	◎	◎		○		30%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	ネットワーク I							
科目名(英)								
単位数	3単位	時間数	54時間	担当者	高倉 美哉			
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社において プログラマーとして勤務			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年							
授業概要	現在、標準的に使われているTCP/IPネットワークに利用されている技術やツールについて学ぶ。 またシミュレーションソフトを使用して、データの転送の仕組みやアプリケーションプロトコルについて 理解する。							
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				IPアドレス、サブネットマスクの意味、サブネット化の計算ができる		
	○	○				要求に応じて、小規模LANの設計ができる		
	○					telnet、DNS、HTTPなどのアプリケーションプロトコルについて説明できる		
	○					OSI参照モデルの各レイヤの特徴を説明できる		
テキスト・教材 参考図書	ゼロからわかるネットワーク超入門(技術評論社)							
授業計画	回数						授業外学修指示	
	1- 3	・インターネット通信、pingコマンドの使い方 ・IPアドレス						
	4- 6	・IPアドレス					小テストの準備として、IPアドレスの 計算練習を行うこと	
	7- 9	・ルーティング						
	10- 12	・パケットによるデータ分割 ・TCPとUDP						
	13- 15	・ICMPとping ・プロトコル						
	16- 18	・プロトコル					小テストの準備として、プロトコルの特徴 などについて復習を行うこと	
	19- 21	・OSI基本参照モデル						
	22- 24	・ネットワークインタフェース層の役割					総復習に向けて、不明点を質問できるよう まとめておくこと	
	25- 27	・総復習						
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)課題・レポートを3回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験(筆記)	◎	○				60%	
	小テスト	◎	◎				20%	
	課題・レポート				○		20%	
履修上の注意								

科目名	制御ソフト I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	高橋 政博		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社において プログラマーとして勤務		
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	制御ソフト(組み込みシステム)の概要について学習する。 実機を使用して、実際に制御プログラムを作成し、実習形式で制御ソフト(組み込みシステム)を学習する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					組み込みシステムとは何で、どこで使用されるものか説明できる	
		○	○			組み込みシステム開発ツールを使用し、制御プログラムを作成できる	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・絵で見る組み込みシステム入門 一般社団法人組み込みシステム技術協会 編・著(電波新聞社) ・ロボットと情報技術 実習-教育版EV3ソフトウェア(株式会社アフレル) ・レゴマインドストームEV3 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	組み込みシステムの世界				身の回りの組み込みシステムを調べる	
	2	組み込みシステムの仕組み					
	3	ハードウェア技術①【マイコン】					
	4	ハードウェア技術②【入出力・LSI】					
	5	ソフトウェア技術①【リアルタイムOS】				WindowsOSとリアルタイムOSの違いを調べる	
	6	ソフトウェア技術②【ミドルウェア】					
	7	ソフトウェア技術③【企画から製品化】					
	8	組み込みシステム開発手法					
	9	組み込みシステムの未来					
	10	制御ソフト開発①【EV3でのプログラミングとは】				各種センサが使用されている組み込みシステムを調べる	
	11~ 12	制御ソフト開発②【カラーセンサを使ったライトレース】					
	13~ 14	制御ソフト開発③【タッチセンサを使ったスタート&ストップ】					
15~ 16	制御ソフト開発④【ソナーセンサを使った衝突回避】						
17~ 18	制御ソフト開発⑤【ジャイロセンサを使った姿勢制御】						
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)プログラム開発課題を課す。(4)受講状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	レポート提出状況	◎	◎		○		20%
	プログラム開発演習		◎	○	○		20%
受講状況				◎		10%	
履修上の注意							

科目名	コンピュータオペレーション演習B							
科目名(英)								
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	高倉 美哉			
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目				
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年							
授業概要	企業内サーバとして構築されるLinuxについて、基本的な操作方法、役割などを学ぶ。また演習を通してLinuxの基本操作、さまざまな管理機能について理解する。							
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				Linuxの概念や役割を説明できる		
		○				Linuxの基本コマンド操作、viエディタによるファイル編集を行うことができる		
		○				Linuxサーバにてユーザ管理、ネットワーク管理を行うことができる		
		○				Linuxサーバにおけるプロセス管理、ファイル管理を行うことができる		
テキスト・教材 参考図書	Linux標準教科書(LPI-Japan)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1・2	Linuxとは(UNIX, Linuxの特徴・ディストリビューション)・認定試験について Linuxのインストール						
	3・4	基本コマンド1(ディレクトリ/ファイル操作・コマンドパス) 正規表現とパイプ(標準出力・標準エラー出力・grep)						
	5・6	基本的コマンド2(ファイル属性・テキストファイル操作) viエディタの使い方(基本操作)						
	7・8	管理者の仕事(ユーザアカウント登録/削除・グループ登録・パスワード管理)						
	9・10	ユーザ権限とアクセス権(所有者と所有グループ)						
	11・12	ネットワークの設定と管理(IPアドレス)						
	13・14	ネットワークの設定と管理(簡単なセキュリティの設定)						
	15・16	ファイル管理(ファイルシステム)						
	17・18	ファイル管理(マウント)						
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)課題・レポートを2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		小テスト	○	◎				50%
		課題・レポート		◎		○		40%
		受講状況				◎		10%
	履修上の注意							

科目名	Webプログラミング演習 I B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	手嶋 隆之		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科、情報システム専攻科、情報工学科 1年						
授業概要	実際にWebサイトの作成し、構造及びデザインの基礎を学習する。体系的にWebサイト作成の技術を学び、Webサイトが作れるようになる						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			jQueryの基本的な文法が使用できる	
		○	○			Webサイトの構築と基本デザインができる	
		○	○			Webサイトが動作する原理を理解し作成できる	
テキスト・教材 参考図書	①本当によくわかるJavaScriptの教科書(SBクリエイティブ) ②HTML&CSSとWebデザインが1冊できちんと身につく本(技術評論社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	教材①使用 Chapter9 jQuery 基本的な構造、さまざまな要素の指定、イベント					
	3-4	Chapter9 jQuery ハンバーガーメニュー、プラグインの方法					
	5-6	教材②使用 Chapter1-2 Webサイトとデザインの基本					
	7-8	Chapter4-5 CSSの基本と書き方					
	9-10	Chapter6-7 ページ製作(1カラム、2カラム)					
	11-12	Chapter8-9 グリッドレイアウト、問合せページの作成				オリジナルWebページの案を考える	
	13-14	Chapter10 マルチデバイス対応ページの作成					
	15-18	総合演習 オリジナルWebページの作成				オリジナルWebページの作成	
評価方法	(1)課題作成を数回実施する。(2)授業の中で、確認テストを2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	◎	◎				30%
	課題作成		◎	○	○		60%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	プログラミング演習 I						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	54時間	担当者	小淵 洋子・川野 啓祐		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社において プログラマーとして勤務		
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	Javaの開発環境とプログラミングの基礎文法を学んだ後、オブジェクト指向の基本的概念であるクラス、メソッド、カプセル化、継承、ポリモーフィズムを中心に学習を進める。 各テーマの理解確認として複数の難易度別課題に取り組むことで、プログラミング力を養う。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				Javaの開発環境を設定できる	
	○	○		○		クラスや継承等のオブジェクト指向に基づくJavaプログラムを作成できる	
テキスト・教材 参考図書	Java入門編 ゼロからはじめるプログラミング(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Java環境設定					
	2	第1章 Java言語に触れる、第2章 変数、算術演算と式、型変換					
	3	第3章 条件分岐と繰り返し、1次元配列					
	4	第3章 2次元配列、課題演習				授業内容に係る課題演習を実施するので、復習しておくこと	
	5	第4章 メソッドの引数、mainメソッドの引数					
	6	第4章 メソッドの戻り値、メソッドのオーバーロード					
	7	第4章 課題演習、オブジェクト指向				授業内容に係る課題演習を実施するので、復習しておくこと	
	8	第5章 クラスとインスタンス、参照					
	9	第5章 課題演習、コンストラクタ				授業内容に係る課題演習を実施するので、復習しておくこと	
	10	第6章 インスタンスメソッド、クラス変数					
	11	第7章 課題演習、継承の概念とオーバーライド				授業内容に係る課題演習を実施するので、復習しておくこと	
	12	第7章 コンストラクタ					
	13	第7章 ポリモーフィズム					
	14	第7章 課題演習、総復習				授業内容に係る課題演習を実施するので、復習しておくこと	
	15	確認テスト				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テスト(筆記)を1回実施する。(3)課題演習を5回実施する。(4)受講状況以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		◎	◎				50%
確認テスト		◎	◎		○		20%
課題演習		◎	◎		○		20%
受講状況				◎		10%	
履修上の注意							

科目名	一般教養 I B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	畠添 正和		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	就職筆記試験の要素である英語及び社会に関して基本知識を習得する。毎回多くの練習問題を解くことで、様々な問題に対応できる力をつける。また、前期に実施した国語及び数学の復習を行う。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				英語の基本5文型で書かれた短文の和訳ができる	
	○					就職試験頻出の国内外の都市名、古代～現代の主な出来事を挙げることができる	
	○					就職試験頻出の基本的な経済用語を説明できる	
	○					就職試験頻出の漢字、同音異義語、四字熟語の読み書きができる	
	○	○				長文や図表を用いた数学問題で正しい式を考えることができる	
テキスト・教材 参考図書	就職筆記試験対策問題集(ウィネット)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	英語:短文和訳(1.前置詞句) 社会:日本地理(1-3)					
	2	英語:短文和訳(2. To不定詞) 社会:世界地理(1-3)					
	3	英語:短文和訳(3. Ing形 4. 過去分詞) 社会:日本史(1-3)					
	4	英語:短文和訳(5. 第5文型) 社会:世界史(1-3)					
	5	英語:短文和訳(6. Itを用いた文) 社会:政治経済(1-3)					
	6	英語:短文和訳(7. 関係詞) 社会:政治経済(4-5)					
	7	英語:短文和訳(1-7復習) 社会:基礎知識(現代社会・宗教・芸術、政治経済(復習プリント))				これまでの学習内容で苦手とする分野を確認しておくこと	
	8	小テスト(英語(短文和訳)及び社会(政治経済))				授業内容に係るテストを実施するので、復習しておくこと	
	9	小テストのフォローアップ 英語:1. 基本単語、2. 時事英語 国語・数学の復習					
	10	英語:3. 熟語、4. 発音、5. 会話表現 国語・数学の復習					
	11	英語:6. 文法、7. 英文和訳、8. 和文英訳 国語・数学の復習					
	12	英語:長文読解 国語・数学の復習					
	13	模擬問題(text):一般常識、SPI言語分野、SPI非言語分野				これまでの学習内容で苦手とする分野を確認しておくこと	
	14	SPI模擬テスト(ASODリル)					
15	総復習						
評価方法	(1)授業の中で小テストを1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	小テスト	◎	◎				40%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	ゼミナール I B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	小淵 洋子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	個人ワークやグループワークにより社会人基礎能力を養う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○			○		PDCAサイクルを用いた目標および行動管理ができる	
	○			○		グループ学習を通して、学習への主体的な取り組みと他者への働きかけができる	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	社会人基礎力について考え、PDCAサイクルを学ぶ					
	2	ワーク1 Plan	自ら目標を設定し、実行計画を立てる			授業で扱うテーマについて自分の考えをまとめること	
	3	ワーク2 Do	主体的に取り組む				
	4	ワーク3 Do	周囲に働きかけ互いに協力しあう環境を築く				
	5	ワーク4 Check	現状を把握し、課題を明らかにする				
	6	ワーク5 Action	課題に対する改善策を考える				
	7	ワーク1～5を振り返り、評価する				授業で扱うテーマについて自分の考えをまとめること	
	8	イベント企画					
	9	学科交流					
	10	IT系職種と必要とされる専門性を理解する				授業で扱うテーマについて調べてくること	
	11	グループ学習	情報処理技術者試験 アルゴリズム(リスト)				
	12	グループ学習	情報処理技術者試験 アルゴリズム(整列)				
	13	グループ学習	情報処理技術者試験 アルゴリズム(文字列)				
	14	グループ学習 Java					
15	1年間の振り返り						
評価方法	下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題レポート	○	○		○		50%
	受講状況				◎		50%
履修上の注意							

科目名	ビジネスソフトウェア演習 I B								
科目名(英)									
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	川野 啓祐		
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年								
授業概要	Wordを使用して、ビジネス文書や表現力をアップする機能を使った文書(チラシ等)が作成できる PowerPointを使用して、プレゼンテーションを行う際の効果的に見せるためのスライド作成ができる								
授業形式	講義:		演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
		○	○			Wordを使って、30分以内でビジネス文書(社外文書)を作成できる			
		○	○			PowerPointを使って、プレゼンテーションを行う際の効果的に見せるためのスライド作成ができる			
テキスト・教材 参考図書	よくわかる Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016(FOM出版)								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1	第1章 Wordの基礎知識/第2章 文書の新規作成(Word)①							
	2	第2章 文書の新規作成(Word)②							
	3	第3章 グラフィック機能の利用							
	4	第4章 表の作成(Word)/第13章 アプリ間でデータの共有(WordとExcel)							
	5	補足 長文の作成							
	6	Word 練習問題(総復習)					テキストの第1章～第4章を復習しておくこと。		
	7	実技試験(Word)/第10章 PowerPointの基礎知識					6回の練習問題を復習しておくこと。		
	8	第11章 プレゼンテーションの新規作成							
	9	第12章 スライドショーの実行							
	10	第13章 アプリ間でデータの共有(WordとPowerPoint)							
	11	PowerPoint 練習問題(総復習)					テキストの第11章～第13章を復習しておくこと。		
	12	実技試験(PowerPoint)					11回の練習問題を復習しておくこと。		
	13	テーマを決めて、情報収集、プレゼンテーション作成/Wordでストーリーシート作成					テーマを考えておくこと。		
14- 15	PowerPointでプレゼンテーションの資料作成								
評価方法	(1)定期試験(実技)を実施する。(2)数回の課題を課す。(3)課題に対してのプレゼンテーションを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	実技試験			◎			50%		
	小テスト			◎			20%		
	宿題・レポート			◎	○		15%		
	受講状況				◎		15%		
履修上の注意	プレゼンテーションには、時間の制約があるので、しっかり守って作業をしましょう								

科目名	サーバーコマンド						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者			
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科アドバンス1年						
授業概要	Linux(CentOS)の基礎的な使い方を説明する。 操作に必要なコマンドを理解し、基本的な操作ができるように演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					Linuxの特徴を理解し、説明できる。	
		○				基本的なコマンドを使った操作ができる。	
テキスト・教材 参考図書	・新しいLinuxの教科書 (SBクリエイティブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Linux(CentOS)環境構築 インストールからログイン、ログアウト、シャットダウン			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	シェルとは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 環境構築未完了の場合、完了させておくこと		
	3	ファイルとディレクトリ 基本的なファイル操作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	アーカイブと圧縮			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	テキストエディタ(Vim)の使い方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	bashの設定パーミッション			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	プロセスとジョブ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	標準入出力とパイプライン			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	テキスト処理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	正規表現			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	高度なテキスト処理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	シェルスクリプトとは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	シェルスクリプト演習①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	シェルスクリプト演習②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	シェルスクリプト演習③			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)受講率を点数化し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	課題・レポート	○	◎				20%
	受講状況・態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	プログラミング演習ⅡB						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	藤澤 昌聡		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 アドバンスコース 1年						
授業概要	教科書ベースで講義、演習を行い、Javaの単体テストが行える技術習得を目指す。プログラム上にあるバグを発見し、適切に動作する様、バグ改修を行えることを目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				Javaプログラミングにおいて、正しいテスト手法においてテストが行える	
		○				デバッグの方法を習得し、プログラムの問題箇所を特定できる	
		○				問題箇所を改修し、正しく動作していることをテストで確認できる	
テキスト・教材 参考図書	JUnit実践入門 ~体系的に学ぶユニットテストの技法						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Javaの単体テスト					
	2	JUnitを使った単体テスト 入門			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	アサーション			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	テストランナー			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	テストのコンテキスト			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	テストフィクスチャ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	パラメータ化テスト			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	カテゴリ化テスト			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	デバッグ演習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	デバッグ演習・バグ修正1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	デバッグ演習・バグ修正2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	Androidテスト①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	Androidテスト②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	Androidテスト③			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	復習/期末試験対策						
評価方法	(1)各章での演習課題提出(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)受講状況の評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				50%
	課題提出		◎		○		30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題については期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	Webアプリケーション開発演習B						
科目名(英)							
単位数	10単位	時間数	150時間	担当者	藤澤 昌聡		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 アドバンスコース 1年						
授業概要	教科書ベースで講義、演習を行い、PHPフレームワークを活用したWebアプリケーション開発能力修得を目指す。演習を通じ、技術の理解を深め、知識の定着を図る。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				LaravelによるWebアプリケーション開発環境を構築することができる	
		○				MVCモデルに準拠したWebアプリケーションを開発することができる	
テキスト・教材 参考図書	PHPフレームワーク Laravel入門(秀和システム)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1～5	フレームワークとMVC構成/コントローラー					
	6～10	コントローラーとビュー				環境構築未完了の場合、完了させておくこと	
	11～15	ミドルウェアを利用したリクエスト・レスポンス処理・バリデーション					
	16～20	データベースとモデル(クエリビルダ、マイグレーションとシーディング)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	21～25	データベースを使いこなす(EloquentORM、モデルのリレーション)					
	25～30	リソースコントローラとRESTful、セッション管理、ユニットテスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	31～35	総合演習①					
	35～40	総合演習②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	41～45	総合演習③					
	46～50	総合演習④				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	51～55	総合演習⑤					
	56～60	総合演習⑥					
	61～65	総合演習⑦					
	66～70	総合演習⑧					
71～75	復習/期末試験対策						
評価方法	(1)各章での演習課題提出(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)受講状況を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				50%
	課題提出		◎		○		30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題については期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	モバイルアプリケーション開発演習 I						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	久家 政人		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科アドバンス1年						
授業概要	AndroidOSのネイティブ言語であるJava言語を拡張したKotlinと公式開発環境であるAndroidStudioを用い、モバイルアプリケーション開発の基礎知識と実践法を習得する。実際の開発を進めながら教科書の重要となるポイントを詳細に解説し、知識の定着化を図る。オリジナルのアプリケーションを開発し、応用力を身に付ける。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				スマートフォンアプリケーションの開発環境構築ができるようになる	
		○				基礎的な機能を使ったAndroidアプリケーションの開発ができるようになる	
テキスト・教材 参考図書	はじめてのAndroidプログラミング第3版 (SBクリエイティブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1~4	開発環境準備、Android Studioの使用方法					
	5~8	初めてのアプリ作成、Githubと連携してソースを共有				Githubアカウントを取得しておくこと	
	9~12	Kotlinについて学ぶ					
	13~16	Kotlinについて学ぶ					
	17~20	Kotlinについて学ぶ					
	21~24	じゃんけんアプリ作成					
	25~28	体型記録アプリを作ろう					
	29~32	加速度センサーで玉ころがしアプリを作ろう					
	33~36	音の出るスライドショーアプリを作ろう					
	37~40	カウントダウンタイマーを作ろう					
	41~44	洋食屋のメニューアプリを作ろう					
	45~48	目覚まし時計を作ろう					
	49~52	スケジューラアプリを作ろう					
	53~56	総合演習					
57~60	総合演習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)受講回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	課題・レポート	○	○		◎		20%
	受講状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	一般教養 I B							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者		
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	情報システム専攻科アドバンス1年							
授業概要	<p>ニュースを通して、時事に関心を持てるように、以下の項目を行う。</p> <p>① ニュースサイト記事を利用し、時事情報に関心を持ち、背景を含め内容理解ができるようする。</p> <p>② 毎日、時事情報を読み、概要記述を行う。</p> <p>③ テキストの内容を確認し、新聞などで現時点での世の中での状況を確認し、その項目の概要を把握をす</p>							
授業形式	講義:	○		演習:		実習:		
						実技:		
						※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					時事情報に関心を持ち、背景を含め内容を説明できる。		
		○				時事情報を読み、概要記述ができる。		
			○			テキストの内容を確認し、世の中での出来事の概要を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	・朝日新聞 朝日キーワード就職2021(朝日新聞出版)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	政治分野の基礎問題(1)						
	2	経済分野の基礎問題(2)						
	3	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(1)						
	4	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(2)						
	5	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(3)						
	6	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(4)						
	7	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(5)						
	8	確認テスト(経済分野及び政治分野の基礎問題) ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(6)						
	9	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(7) 小テスト(政治・経済分野)					小テストの見直しを行い、間違い箇所の復習を行うこと。	
	10	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(8) 小テスト(政治・経済分野)、テキストの内容確認					小テストの見直しを行い、間違い箇所の復習を行うこと。	
	11	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(9) 小テスト(政治・経済分野)、テキストの内容確認					小テストの見直しを行い、間違い箇所の復習を行うこと。	
	12	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(10) 小テスト(政治・経済分野)、テキストの内容確認					小テストの見直しを行い、間違い箇所の復習を行うこと。	
	13	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(11) 小テスト(政治・経済分野)、テキストの内容確認					小テストの見直しを行い、間違い箇所の復習を行うこと。	
	14	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(12) 小テスト(政治・経済分野)、テキストの内容確認					小テストの見直しを行い、間違い箇所の復習を行うこと。	
15	確認テスト(テキストの内容確認) ⇒ テキスト持ち込みで実施する					確認テストの見直しを行い、間違い箇所の復習を行うこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テスト、課題・レポートを適宜実施する。(3)受講率を点数化し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	◎	○				40%	
	小テスト	◎	○				20%	
	課題・レポート	○	◎				20%	
	受講状況・態度				◎		20%	
履修上の注意								

科目名	ビジネスコミュニケーション I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者			
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科アドバンス1年						
授業概要	ビジネスコミュニケーションの基礎知識を習得し、論理的な思考表現を段階的に身につける。 ①主体的に考え、行動することができる。 ②論理的な思考表現が出来るようになる。 ③人前で堂々と話をする事、人の話を最後まで聞くことができるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					ビジネスコミュニケーションの基本手法を説明できる。	
		○	○			人前で堂々と話をする事、人の話を最後まで聞くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	・ビジネス・コミュニケーション (株式会社ファーストプレス)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 効果的なコミュニケーションの要素(明快さ・一貫性)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	第1章 (前後関係・礼儀)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	第1章 (確認・簡潔性)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	第1章 (論理的な構成・衝突の回避)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	ビジネスコミュニケーション☆クイズ					
	6	第2章 一般的なコミュニケーションのタイプ(効果的な質問・説得力のある主張)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	第2章 (要求/指示をする・情報の伝達)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	第2章 (ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	第2章 (問題解決・非言語コミュニケーション)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	ビジネスコミュニケーション☆クイズ					
	11	第3章 特殊な状況下でのコミュニケーション(ビジネスメール・ミーティング)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	第3章 (ブレンストーミング・インタビューを受ける)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	第3章 (インタビューをする・交渉)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	第3章 (プレゼンテーション・危機管理)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	ビジネスコミュニケーション☆クイズ						
評価方法	(1)課題・レポートを適宜実施する。(2)授業内のグループワークへの取り組み姿勢を評価する。(3)受講率を点数化し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート	◎	○				50%
	授業への取り組み姿勢		○	○	○		30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験秋期対策ⅡB						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	50時間	担当者	志水、打越、西野、久家、村上、柴内、木村(予定)		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験春期対策ⅡB						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	24時間	担当者	姫野、志水、村上、久保山、藤澤(予定)		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意							